


整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2024 -87	2024/5/29	Constellation Frigate 'Unplanned Weight Growth' Could Limit Service Life, Says GAO	【米FFG重量増加関連】 コンステレーション級FFGの「計画外の重量増加」は耐用年数を短くするとGAOが指摘	USNI News 2024/5/29	 米海軍の建造中の新型フリゲートに今度は重量増の問題が出てきたというニュースです。	岩崎洋一
2024 -88	2024/5/31	Rolls Royce MT30 Selected To Power Japan's ASEV	【ASEV主機関連】 ロールス・ロイスのMT30がASEVに採用	Naval News 2024/5/31	 ASEVにMT30が搭載される予定です。MT30は良いエンジンなのかもしませんが、これで国内の主機メーカーはKHIが独占になるのでは。防衛産業基盤育成、抗堪性の視点から本当にそれでよいのか。IHI製のエンジンはどうするのか。疑問が残ります。	川原梅三郎
2024 -89	2024/5/14	The Navy secretary's misguided war on profits	【米造船修繕の現状】 海軍大臣の企業利益に関する筋違いな戦争	Breaking Defense 2024/5/14	 防衛予算の適正価格の考え方は非常に難しく、安易に削減できないものです。事業の現実を理解していないと、防衛基盤も含めて、とんでもない方向に行く可能性があることが判ります。正しい現実を把握することの重要性を説いているように聞こえます。	清水隆
2024 -90	2024/5/31	HMS Queen Elizabeth dry docking period in Rosyth extended	【英空母不具合関連】 HMS Queen Elizabeth, Rosythでの乾ドック期間を延長	NAVY LOOKOUT 2024/5/31	 就役から何かと不具合の多い英海軍の空母2隻ですが、どうやら推進軸にも大きな不具合があり、2隻とも半年近く入渠して両舷の推進軸を交換した模様です。分割した推進軸のカップリング部分の水密が不十分で海水が浸入して腐食が進行したのだとか。虎の子の空母のはずなのに粗末な限りです。どうも英空母は消防管といい推進軸といい海水に呪われているようです。	佐々木司
2024 -91	2017/12/18	Navy's new £3.1bn aircraft carrier HMS Queen Elizabeth is LEAKING - and repairs will cost millions	【英空母不具合関連】 海軍の31億ポンドの新空母HMSクイーン・エリザベスで水漏れ - 修理には数百万ドルかかる見込み	SUN 2017/12/18	 英海軍の空母Queen Elizabethの船尾軸受付近のプロペラと軸とのシールに不具合があり、自区内に海水が流入、日稼働となってしまった事案です。記事は2017年のもので、修理は短期間で完了し、艦の行動に影響はなく、僚艦への影響を調査中とありますが、2024年現在、両艦とも重大な不具合として半年近く入渠し、両舷軸を交換する重大事態となっています。	佐々木司
2024 -92	2024/6/3	Type 212CD AIP Will Change Underwater Game For Norwegian Navy, Says Submarine CO	【ノルウェー海軍潜水艦関連】 212CD型AIPはノルウェー海軍の水中におけるゲームチェンジャーになると潜水艦COが発言	Naval News 2024/6/3	 ノルウェー海軍の潜水艦能力向上に関する記事です。AIPを搭載した新型の212CD型潜水艦に関する計画と、既存のUla級潜水艦のアップグレードに関する内容が含まれています。同海軍は既存の潜水艦に関して計画的アップグレードを行うことにより、艦齢を重ねても陳腐化しない考慮がなされています。また隠密性重視の観点から船体小型化を運用者は望んでいるようです。	佐々木司
2024 -93	2024/3/14	Coastal defence	【対ドローン関連】 沿岸防衛	European Security & Defence 2024/3/14	 「いずも」のドローン撮影が実際に行われたとの防衛省の見解が示されましたが、「ドローン飛行禁止」という性善説だけでは厳しい状況です。艦船の通常停泊状態は警戒監視が脆弱な態勢であることは間違いありません。特にドローンのような小型飛行体はターゲティングの難しさもあります。整備補給と休養が主となる停泊中の間隙を補うためにも、重層的な沿岸防備としての専門部隊と装備品が必要です。	工藤悟
2024 -94	2024/6/2	Taiwan Revives New Generation Frigate Program	【台湾艦船情報】 台湾が新世代のフリゲート計画を復活させる	Naval News 2024/6/2	 台湾海軍が2016年に計画していた新世代フリゲート建造計画を排水量を増やし再始動するという内容です。2016年、米国からイージスシステムの供与が得られない中で発表した水上艦建造計画ですが、国産の艦載型小型イージスレーダーシステムと言うべき研究開発が失敗した中で、排水量の増大により台湾国産イージスを追求するのか、外国製を採用するか興味深い内容です(記事はこの点、言及なし)。台湾海軍の水上艦老朽化が進むなか(26隻中15隻が艦齢25年以上、チーヤン級フリゲート6隻に至っては艦齢50年前後)国産水上艦の建造は、中台の緊張が高まる中、台湾が進めたい計画と理解します。個人的には、国内建造基盤で潜水艦を建造を考えると、水上艦も条件が整えば建造できるものと思料します。	山越博道
2024 -95	2024/5/21	Stellar Systems unveil 'Fearless' Multi Role Support Ship concept	【英多目的艦構想】 ステラ・システムズ社がFearless多用途支援艦コンセプトを発表	NAVY LOOKOUT 2024/5/21	 英海軍のMRSS(Multi Role Support Ship)計画に対する一提案ですが、本船に搭載される可能性のある、現在実証試験中の揚陸艇の開発を担当する、ステラ・システムズ社のMRSSの提案です。従来型の強襲揚陸艦のイメージとは大分異なる、スマートで高速を発揮する艦船であり、兵装も強力です。輸出をも想定した、新しい概念の強襲揚陸艦です。	本山泰之

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2024 -96	2024/6/2	Hanwha Ocean Teams Up with Canadian Firms for Submarine Project	【加潜水艦向け韓国企業動向】 ハンファ・オーシャン社、潜水艦プロジェクトでカナダ企業と提携	VANGUARD 2024/6/2	 韓国企業のカナダへの潜水艦輸出に向けた取り組みに関する記事です。現地企業との提携等を着実に進めるなど、装備移転に対するお手本を見ているようにも思えてきます。昨年の造船所を手始めに、提携先は非常に高範囲に及び、潜水艦輸出に向けた、カナダ防衛産業界との急速な関係構築には驚かされます。カナダ国内では選定作業を推進中ですが、韓国は既成事実を着実に積み上げているようです。日本も有力候補と聞きますが、日経新聞(3/29)が指摘する、如何に政官民一体となれるか、が重要なようです。	本山泰之
2024 -97	2024/6/18	Welcome to USNI News' newsletter exclusively for Naval Institute members.	【USNI会員専用ニュース】 USNIニュースの米海軍協会会員専用ニュースレターへ、ようこそ。	USNI News 2024/6/18	 1週間のUSNIニュースの中で、トピックをまとめたものが、「シースクロール」として会員に配布されています。なかなか中身の濃い内容となっています。最後の方(10ページ)で、生成AIを使ってイラストを簡単に作る技を紹介しています。	岩崎洋一
2024 -98	2024/5/27	Questions surface over fast-tracked \$10b warships	【豪フリゲート関連】 急ピッチで進められる100億豪ドルの軍艦に関する疑問が表面化	FINANCIAL REVIEW 2024/5/27	 豪州のフリゲート計画に関連し、豪州政府が5/27に西、独、韓、日の5造船所に情報要求を出したと、その性急さを危惧する内容の記事です。3週間以内の回答を求めています。現時点で既に回答が出されている筈ですので、新たな動きがみられるかもしれません。	山越博道
2024 -99	2024/5/10	Japan's defense chief calls for more counter-drone tech	【対ドローン関連】 日本の防衛大臣は、より多くの対ドローン技術を要求します	AP 2024/5/10	 ドローンによる「いずも」飛行甲板映像に関するAP通信からの記事です。「いずも」を空母、ヘリ空母、航空母艦など色々な表現となっています。「より高性能な対ドローン装備の導入や、電波妨害によるドローンの強制着陸などの対策強化」について言及されていますが、保全上によるものなのか、検討中のためなのか具体的な対策方針はまだ公表されていません。小型無人機等飛行禁止法(ドローン規制法)で重要施設上空の飛行は禁止されましたが、実効性のある対策が行えるように平時の基地防衛に対する法的権限を見直す必要があります。	工藤悟
2024 -100	2024/6/17	Chinese Type 076 Amphibious Carrier Takes Shape In Shanghai, Drone Capabilities Emerge	【中国揚陸空母建造状況】 中国の076型揚陸空母が上海で姿を現す、ドローン機能も登場	Naval News 2024/6/19	 中国海軍が075型よりも大型の46,000トン級強襲揚陸艦の建造に着手しているようです。この艦はただ大きいだけでなく、強襲揚陸艦では世界初となる電磁カタパルトを装備していることが最大の特徴になります。カタパルトがあれば各種戦闘機等が運用可能となり、既設役の空母に合わせてきわめて強力な洋上攻撃能力を手に入れることになります。	佐々木司
2024 -101	2024/6/19	UK Defence Industry Economic Delegation Seeks Cooperation With HD Hyundai In Naval Sector	【英国防産業韓国と協力模索】 英国国防産業経済代表団は海軍部門で現代HDとの協力を求める	Naval News 2024/6/18	 英国と韓国は、海軍部門で協力を模索しているようです。具体的な内容は不明ですが、韓国は、米国、カナダに続き英国ともパートナー関係を構築するとは、物凄い体力だと思えます。記事の最後に、引渡式に他国政府の代表を招待したとありますが、我が国も進水式、自衛艦旗授与式等に駐在武官等を招待して、相手に能力を誇示する努力も必要かもしれません。	川原梅三郎
2024 -102	2024/6/20	South Korean Shipbuilder Hanwha Makes \$100M Bid to Buy Philly Shipyard, SECNAV Del Toro Praises Deal	【韓国企業米造船所買収】 韓国のハンファ造船が米国フィリー造船所買収に1億ドル(158億円)を入札、デル・トロ海軍長官はこれを称賛	USNI News 2024/6/20	 韓国大手造船のハンファ・グループが米国の造船所を買収したというニュースです。今年2月のデル・トロ海軍長官の韓国造船所視察での話(米造船所に投資をしてくれという)を受けてのものです。米海軍の艦艇造修に食い込もうとしています。巻末に、生成AIのGeminiに、「米国造船所を買収したハンファの意図は？」と質問したら、すらすらと回答(正確かどうかは保証しません)したものを追記します。	岩崎洋一
2024 -103	2024/5/1	A Case For Accelerated Canadian Submarine Procurementほか	【次期カナダ潜水艦要求関連】 カナダの潜水艦調達を加速させるケース、ほか1編	STAR SHELL 2024/5/1	 5月までのNaval Association of Canadaの雑誌に、立て続けに掲載されたカナダの次期潜水艦に関する2編です。Naval Association of Canadaの論説ですが、2編とも、次期カナダ潜水艦の要求事項を示し、暗に名指して、申し入れをしているかの内容です。どう認識するかは読者次第ですが、カナダは“proven”な、設計と運用実績と納期を求めていることは間違いないようです。彼らは、自他の経験を踏まえ、それらの重要性を学んでいます。一方で、提案側は、IMO極海コードへの対応は、真摯に検討する必要があります。	本山泰之

整理番号	発刊日	Title	タイトル訳	出典	所見等	情報提供者
2024 -104	2024/5/16	It' s Final: Chinese Engine To Be Installed Aboard Chinese Submarine For Thai Navy	【タイ潜水艦エンジン問題】 最終決定:タイ海軍向け中国製潜水艦に中国製エンジン搭載へ	THAI NEWSROOM 2024/5/16	 <p>中国で建造中の潜水艦にドイツ製エンジンが搭載出来ない問題に対して、昨年10月、タイの首相と国防大臣が水上艦の調達に変更する対策案を提示したという報道がありました。しかし、今日までの詳細な経緯は不明ですが、当該潜水艦に中国製エンジンを搭載することで、決着を見たようです。潜水艦運用インフラもすでに建設されており、現時点1隻のみのようですが、潜水艦を受領することにした模様です。当該エンジンは、原型はドイツ製エンジンながら、リバースエンジニアリングで開発したとの伝聞のある、民生エンジンであり、それを初搭載しての就役です。安全な運航を祈るばかりです。</p>	本山泰之